



聞く・話す楽しさを感じるための援助の工夫

～友達と一緒に遊ぶことを通して～

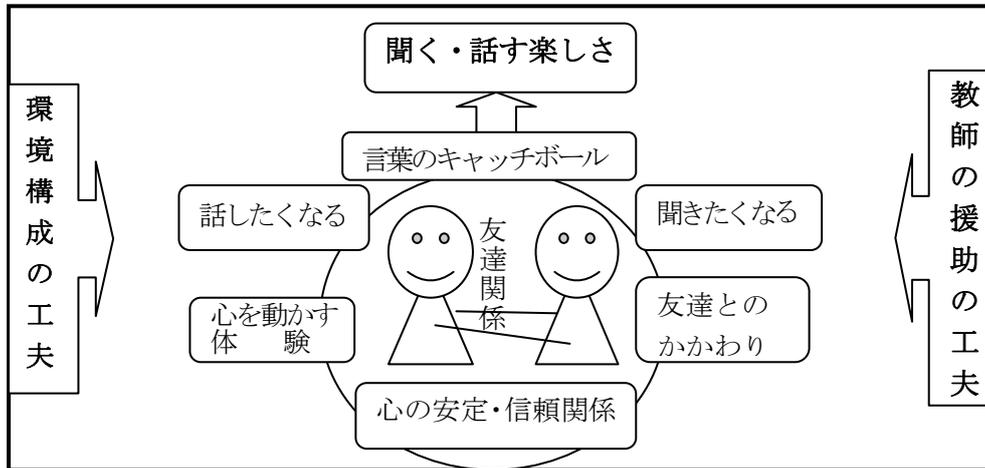
豊見城市立伊良波幼稚園教諭 比嘉裕子

1 研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると、幼児が、自分の思いを言葉で表現し相手に伝え、相手の思いに気づいていけるために、幼児一人一人の言葉の発達や興味関心を捉えて、内面を読み取り、幼児の心に寄り添った教師の援助ができていただろうかと反省する。

そこで、幼児が幼稚園生活の中で、友達との遊びを通して「聞きたくなる」「話す楽しさを感じる」教師の援助の工夫を探る。

2 研究の特徴



3 保育の実践



絵本の読み聞かせ



友達と一緒に遊ぶ



ごっこ遊び

4 研究の成果

- (1) 幼児の興味や関心を捉え、思いや願いに添った環境の見直しと再構成をしたことで、幼児の遊びが深まり友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっていた。
- (2) 教師が、幼児の心の声を聴くように努めることで、幼児が安心感をもち、自分の思いを出しながら遊ぶようになり、聞く・話す楽しさを感じさせることができた。

〈幼稚園教育〉

聞く・話す楽しさを感じるための援助の工夫

～友達と一緒に遊ぶことを通して～

豊見城市立伊良波幼稚園教諭 比嘉裕子

I テーマ設定の理由

近年、少子化、情報化、人間関係の希薄化、子育て機能の低下などの社会状況は、子どもの育ちにも変化が見られ、「基本的な生活習慣の欠如、自制心や規範意識の希薄化、コミュニケーション能力の不足」といった教育課題があげられるようになってきた。

このような今日の教育課題や幼児の実態を踏まえ、本園では、幼児が他者とかかわり、言葉で自分の思いや考えを伝え、相手の考えに耳を傾けることで、友達と創造する幼稚園生活をより楽しく展開できるように、保育の重点目標に「聞く・話す態度の育成」をあげ、日々の保育に取り組んできた。

幼児の実態をみると、絵本や紙芝居等に関しては興味深く聞く事が出来るが、教師の素話や、友達の発表などになると、関心を持って聞くことが出来なかったり、自分の考えがうまく表現できず、コミュニケーションが成立しないことからトラブルになることも多々見受けられる。

これまでの保育を振り返ると、幼児が、自分の思いを言葉で表現し相手に伝え、相手の思いに気づいていけるために、幼児一人一人の言葉の発達や興味・関心を捉えて、内面を読み取り、幼児の心に寄り添った教師の援助が出来ていたか反省するところがある。

幼稚園教育要領の領域「言葉」においては「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と明記され、「話す」ことに加えて、「聞く」ことの重視が書き加えられ、「伝え合う」ことがより明確になった。また、遊びを通して総合的にねらいが達成されるようにする幼稚園の環境を通して行う教育は、幼児の生活の中に「気持ちのつながり」「言葉のつながり」を意識することと考える。

そこで本研究では、これまでの保育を振り返り、幼児が幼稚園生活の中で、遊びを通して教師や友達と心を通わせ、言葉で表現する楽しさを味わい、コミュニケーションを楽しみながら幼稚園生活を充実させていけるためにはどのような環境の工夫や教師の援助が必要か、その在り方について探りたいと考える。

II 研究目標

幼稚園生活の中で、友達と一緒に遊ぶことを通して、聞く・話す楽しさを感じるための援助の工夫を探る。

III 研究の方法

保育実践の園生活の遊びの中で、次の方法で行う。

- 1 幼児を理解し、幼児が興味・関心を持って聞きたくなるような教師の援助の工夫
- 2 幼稚園生活の中で、幼児が聞く・話す楽しさを感じるための遊びの工夫

IV 研究内容

1 幼児の「聞く・話す」力について

(1) 幼児の「聞く」力とは

幼児が「聞きたい」と感じるのは話す相手に好感を持っているか、話の内容が興味深いか、あるいは初対面であっても話し方が魅力的で惹きこまれてしまう時ではないだろうか。幼児の「聞く力」とは、温かな人間関係の中で「聞く」という様々な体験を積み重ねながら、話を聞くことよさを感じたり話の内容を聞き取れた嬉しさを感じたりしていくことである。自分の話したことが伝わった喜びから、意図的に相手の話を聞こうとし、相手の伝えたいことを理解することである。

(2) 幼児の「話す」力とは

幼児は生活の中で心動かす体験（楽しい活動に参加したとき、おもしろい物語を聞いたとき、友達ともめたり悔しい思いをしたときなど）を積み重ね、親しい相手に気持ちを話したくなる。幼児が自分の気持ちを表現する楽しさを味わうことができるようにしていくことが大切である。幼児の「話す力」とは、温かな人間関係の中で、言葉を交わす喜びを味わい、自分の気持ちを相手に分かるように自分なりの言葉で伝えることである。

2 幼児の聞く・話す楽しさとは

幼児は、教師に受け入れられ自分の言葉で思いを伝え、相手に受け入れられることで安心して過ごせるようになる。教師との信頼関係が築かれ、心が安定することで、幼児は、言葉を交わす喜びを味わう。また、自分が話しているとき相手がうなずいたり、微笑んだりするなど応答してもらうと楽しくなってくる。さらに、園生活の中で心動かす体験をしたとき幼児の内面に起こる様々なイメージ、感情、思考が幼児なりの言葉となって出てくる。その気持ちを教師や友達が受け止めてあげることで自分も大事にされたという嬉しさが、言葉を交わす喜びに繋がり「もっと聞きたい・もっと話したい」と感じるようになる。

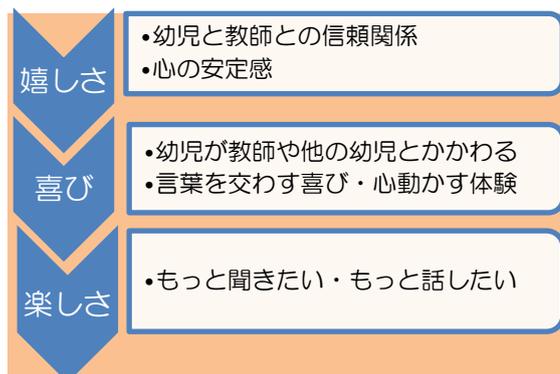


図1 幼児の聞く・話す楽しさを味わう過程

3 幼児期における遊び

幼児期の生活のほとんどは、遊びによって占められている。遊びの本質は人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方に応答しあうことに夢中になり、時の経つのも忘れ、そのかわり合いそのものを楽しむことにある。すなわち遊びは遊ぶこと自体が目的である。幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれている。遊びにおいて、幼児が周囲の環境に思うがままに多様な仕方とかかわるということを次に示す。

- ① 幼児が周囲の環境に様々な意味を発見し、多様なかわり方を発見していくこと。
- ② 意味やかわり方の発見から思考を巡らし、想像力を発揮していく。
- ③ 自分の体を使って、また、友達と共有したり、協力していく。
- ④ 遊びの過程で、幼児は、達成感、満足感、挫折感、葛藤などを味わい精神的にも成長する。
- ⑤ 自発的活動としての遊びは、幼児期特有の学習なのである。

4 幼児の言葉を育むための教師の援助

幼児の言葉を育むためには、教師が幼児との信頼関係を築いていくことが言語環境において最も大切な役割であり、援助であると考える。

幼稚園教育要領解説においても、「幼稚園において、幼児が周囲の人々と言葉を交わすようになるためには、周囲の友達や教師との間に安心して話せる雰囲気があることや気軽に言葉を交わすことができるような信頼関係が成立していくことが必要」とあり、このような基盤が成立していることにより、幼児は、次第に心を開き、自分の話を聞いてもらいたいという気持ちが生まれてくるといえる。

教師は、幼稚園生活の中で、幼児の豊かな言語表現や感情表現を受け止め、認め、共感することが大切であり、この積み重ねが幼児の言葉を育てていく。また、教師が心を傾けて幼児の話やその背後にある思いを聞き取り友達同士の心の交流が図られるように援助の工夫をすることが大事である。

「ことばを育てることは ころを育てること 人を育てること教育そのものである。話しことばは、そのひびきの中にこそ、その人の心をきく」(大村はま)という言葉がある。領域「言葉」は言葉だけではなく、幼児のころの育ちのための一つの窓である。

教師は、幼児の心に寄り添い「ころの声を聴く」ことが大切である。

V 研究の実際

幼児が、幼稚園生活の中で、友達と一緒に遊ぶことを通して「聞く・話す楽しさを感じる」ための環境構成と教師の援助を工夫し、2回の保育実践を行い、改善を図る。

1 保育実践（1回・6月前半）「絵本って、楽しいね」

(1) 保育のねらい

- ・絵本の読み聞かせを通して、聞く・話す楽しさを味わう。

(2) 検証のねらい

- ・読み聞かせを通して、聞く・話す楽しさを感じるための援助の工夫を行う。

(3) 環境構成の工夫

- ・降園時や朝の会などに、幼児が落ち着いて話を聞くことのできる場の雰囲気をつくり、教師が絵本を読み聞かせる。
- ・読む時間や読んだ後に感じたことを話し合う時間を工夫し、話の世界を楽しめるようにする。

(4) 教師の援助

- ・幼児を絵本の読み聞かせに惹きつけるため、手遊びや指人形などを取り入れる。
- ・幼児の発達や興味・関心に合わせた絵本を選択する。
- ・絵本の持ち方、読み方、ページの開き方などの工夫をする。

(5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成の工夫 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月6日 (月)	(帰りの会) ・読み聞かせを通して聞くことの楽しさを味わわせることができるようにする。	・絵本を見る。 ・教師が読む絵本に親しみをもって聞く。 ◎絵本 「ぞうくんのさんぼ」	○幼児が落ち着いて話を聞くことのできる場の雰囲気をつくる。 ○読む時間を工夫する。 ★読み方に工夫をし幼児を惹きつけるようにする。	・ほとんどの幼児の表情から読み聞かせを楽しんでいる様子が見られた。 ・読み聞かせの最中に自分の思いを口に出して言う幼児の姿が見られた。	・絵本を読んだ後、「おもしろかった」の声が多く、聞いていることがわかった。 ・幼児の反応はよかったが絵本の内容を理解していたか探りたい。

6月7日 (火)	(帰りの会) ・読み聞かせを通して興味をもって聞き想像する楽しさを味わわせることができるようにする。	・絵本を見る。 ・教師が読む絵本のストーリーに興味をもって聞く。 ◎絵本 「ガンピーさんのふなあそび」	○子どもが落ち着いて話を聞くことのできる場の雰囲気をつくる。 ○読む時間を工夫する。 ★読み方の工夫や読む位置に気をつけるようにする。 ★幼児一人一人の表情を読み取るようにする。	・幼児の表情から読み聞かせを楽しんでいる姿が見られた。 ・読み聞かせの最中に、笑い声が聞こえたり自分の思いを口に出して言う幼児の姿が見られた。	・読み聞かせ後、「おもしろかった、楽しかった」と言う。「どんなところが？」の問いかけに「ひっくり返ったところ」と感想を話す幼児もいて「そうだね」と共感する楽しさを感じることができた。
6月13日 (月)	(朝の会) ・楽しい雰囲気の中で絵本に興味を持って聞くことができるようにする。	・教師に親しみをもち、絵本に興味をもって聞く。 ◎絵本 「こぶたぬきつねこ」	○子どもが落ち着いて話を聞くことのできる場の雰囲気をつくる。 ○意図的に読む時間や場所を工夫する。 ★幼児一人一人の表情を読み取るようにしながら読み方にも工夫する。	・幼児の笑顔から教師に対し親しみをもっていることが伝わる。 ・読み聞かせでは集中して聞いている姿が見られた。 ・しりとり言葉に興味を示して聞いていた。	・朝の会に喜んで参加し教師の話を聞くことができた。 ・読み聞かせでは親しみをもち興味をもって聞こうとする様子が見られた。もっと聞きたい思いにさせるための方法を工夫する。
6月14日 (火)	(朝の会) ・楽しい雰囲気の中で絵本に興味をもって聞くことができるようにする。	・歌、リズム遊びの後、絵本の読み聞かせを聞く。 ◎絵本 「おうのやまのみみず」	★教師と一緒に歌うことで幼児を楽しい雰囲気にする。 ★興味をもって聞きたくなるように指人形を使う。	・友達と触れ合いながら、歌やリズム遊びを楽しんでいた。 ・指人形を見て喜び「絵本よんでもいい?」「いいよ」など言葉のやりとりを楽しむことで絵本にも興味を示し聞いていた。	・みんなで歌やリズム遊びをして楽しく過ごしたことで絵本も喜んで見る気持ちにさせることができた。 ・関心を寄せるための手立てとして、指人形を使うと、効果が見られた。

【考察】

- ・幼児が園生活に慣れていて、絵本に興味や関心をもち、見て・聞く姿がみられ、さらに指人形を使ったことで、幼児を惹きつけ「聞きたい気持ちにさせる」ことができたと考える。
- ・絵本「おうのやまのみみず」を読んでいる最中に数人の男の子が「みみずってよ!」と友達と顔を見合わせ興味を示したが、次の遊びにつなげることができなかった。幼児の興味に沿った計画的な環境構成や援助の工夫が必要である。

【改善】

- ・園生活の中で幼児が遊びを通して心を動かす体験を重ね、教師や友達との信頼関係を築き、幼児の思いが自分の言葉で話せるようになることが大事である。そのために、周りの環境を整えて幼児の興味に沿った遊びを展開させる援助の工夫が必要である。

2 保育実践（2回・6月後半）「友達とのつながりを深め、ごっこ遊びを楽しむ」

(1) 設定の理由

- ① 教材観（省略） ② 幼児観（省略）
- ③ 指導観

幼児が聞く・話す楽しさを感じるため、これまでの実践保育を通して、絵本の読み聞かせを行ってきた。結果として、教師は幼児の言葉の発達や興味・関心を捉えて、幼児のところに寄り添った援助や、環境構成の工夫をすることが大切である。

そこで、今回のごっこ遊びにおいては、幼児の実態に沿った環境の再構成をし、教師も一緒に遊びながら幼児と信頼関係を築き、幼児同士の遊びが展開できるように援助の工夫をする。

(2) 保育のねらい

- ・好きな遊びの中で友達とのつながりを深め、会話を楽しむ。
- ・遊びに必要なものを自分で考えて作る。

(3) 検証のねらい

- ・幼児が遊んでみたくなるような環境を設定する。
- ・教師も一緒に遊びを楽しみながら、多くの友達とかかわりがもてるような言葉かけをする。

(4) 環境構成の工夫

- ・製作コーナーには空き箱やその他の材料を準備する。
- ・ごっこ遊びが、さらに展開するように遊びの場を再構成する。
- ・十分取り組めるように時間や場の工夫をする。

(5) 教師の援助

- ・教師も一緒に遊びながら、クラスの友達とかかわり、ごっこ遊びを楽しめるように援助する。
- ・友達と思いや考えを伝え合いながら遊びを進めていこうとする姿を認め、見守ったり必要に応じて言葉をかけたりするなど協力して遊べるように援助する。

(6) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成の工夫 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月27日 (月)	・環境を整えることで友達と一緒に好きな遊びを楽しめるようにする。	・広くなったままごとコーナーに気づき友達と一緒に遊ぶ。	○幼児の前で環境を整え、興味や関心を引くようにする。 ★幼児の反応を見ながら一緒に遊ぶ。	・広くなったままごとコーナーで2,3人のグループがいくつかあり、友達との遊びを楽しんでいた。	・環境構成の大切さを痛感すると共に、遊びが継続できるような援助の工夫をしていきたい。 ・「明日も、ままごと遊びしようね」「花屋さんしたいな」の会話が聞こえるなど明日への期待が高まった。



環境を整えると



「広ーい、遊ぼうよ」と友達との遊びが展開し賑やかになった。

<p>6月28日(火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びをしながら会話を楽しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場所でごっこ遊びをする。 ・前日のごっこ遊びを展開する。 	<p>○遊具や用具の片付け場所を表示する。</p> <p>★幼児たちがどのような会話を楽しんでいるか、教師も一緒に遊ぶ中で聞きとめる。</p> <p>★言葉でうまく伝えられないときは教師が代弁して幼児の思いを仲介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園後、すぐにごっこ遊びが見られた。 ・教師が作ったアイスクリームに気づき「作りたい」「教えて」と集まってきて会話が増え賑やかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を再構成したことでごっこ遊びが広がり友達との会話が自然につながっていった。 ・教師が意図した遊びを展開させることで友達とかかわり会話が増えてきた。 ・幼児との信頼関係をより深めるために積極的にかかわっていきたい。
<p>7月1日(金)</p> <p>・本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを伝えながらごっこ遊びを楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と話し合いながら、ごっこ遊びをする。 ・遊びに必要なものを考えて作る。 	<p>○じっくり遊べるように時間の工夫をする。</p> <p>○製作コーナーの素材や材料を分別して置く。</p> <p>★気持ちをうまく伝えられない姿を捉えて様子を見守り必要に応じて言葉をかける。</p> <p>★教師も一緒に遊びながら幼児同士の考えが伝えられるよう仲立ちする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達と考えを出し合いながらごっこ遊びを楽しんでいる姿が見られた。 ・製作コーナーで遊びに必要なものを友達と考えてつくっていた。 ・ごっこ遊びでは「レジはここね」「私がお金もらうから」と自分の考えを伝えながら役割分担する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の動きを見て環境の構成をすることで、遊びが盛り上がるのがわかった。 ・気の合う友達と幼児なりの言葉で会話を楽しんでいた。 ・製作コーナーが広げられたことで遊びに必要なものを作り楽しんでいたが素材や材料が足りないことに気づいた。



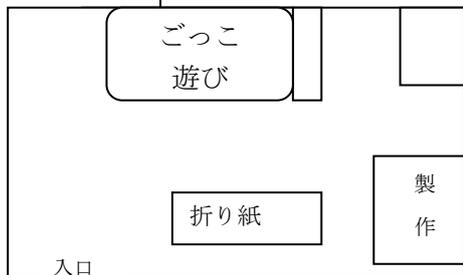
〔制作遊び〕



〔環境の再構成で場が広がり制作にじっくり取りかかる〕

(7) 保育の展開 (本時)

<p>幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を整えたことで友達と一緒に遊びながら、会話を楽しんでいる姿が見られる。 ・ごっこ遊びに興味・関心を示さない子もいる。 ・やりたい遊びで集まった友達の中で、思いの違いからトラブルが起きるときもある。 	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを伝えようとしながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に自分の思いを言葉で伝えたりするなど、相手の考えにも耳を傾ける。 ・遊びに必要なものを自分で作ったり用意したりする。
<p>時間</p>	<p>予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成 ★教師の援助</p>
<p>7:30 登園する(シール貼りなど) 好きな遊びをする</p> <p>8:30 朝の会(出席・一日の流れをきく) 清掃(落ち葉拾い、水かけ) 戸外遊びをする(S字じゃんけん) 手洗い・うがい</p> <p>9:30 <室内遊び></p> <p>好きな遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊び ・製作 ・折り紙 	<p>アイスクリーム屋さんでーす</p> <p>私がレジの人ね</p> 	<p>★一人一人と明るく挨拶を交わしながら、安定した気持ちで園生活が始まるようにする。</p> <p>★身の回りの始末は、認めたり励ましたりしながら、一人一人に合わせて援助する。</p> <p>○前日のごっこ遊びの続きができるようにしておく。</p> <p>★幼児たちの登園状況を見ながら、テーブルを出したり紙やストローなどの材料を出し、遊びの準備を見せることで「何ができるのかな」など、遊ぼうとする気持ちが盛り上がってくるのを待つ。</p> <p>★友達とかかわり合いながら、遊ぶ姿を認め、教師も仲間に入り会話を楽しむ。</p> <p>★会話は少なく、なりたい役になりきって満足している幼児もいるが、次へつなげることが出来るよう見守る。</p> <p>★遊具の貸し借りが出来ずに、トラブルが起こった場合、幼児の気持ちに共感し、どうしたらいいか考え、教師は考えたように行動できるように援助する。</p> <p>★他のコーナーの遊びも充実できるように言葉をかけていく。</p> <p>★片付け時間が近づいたことを知らせる。 もっと遊びたいという気持ちを受け止め明日へ期待を持たせる言葉をかける。</p> <p>★教師が楽しんで片付けをすることで幼児も一緒にしようという気持ちをもてるようにする。</p>
<p>10:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けをする 	
<p>反省評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを伝えようとしながら友達と遊ぶ楽しさを味わっていたか。 	



(8) 検証保育(本時)の評価

① 環境構成の工夫の面から

- ア 幼児の実態把握をし、製作コーナーにテーブルを増やしたことで、身近な素材を使って遊びに必要なものをつくり出した。また、友達のつくったものに気づき、アイデアが広がった。
- イ 発達段階に応じて玩具の精選をしたり環境構成をしたりすることで、一人遊びの多かった幼児が友達と一緒に遊ぶ姿が増えた。
- ウ ごっこ遊びを発展させるための環境構成が十分でなかった。
- エ 本時の保育の流れが細切れになってしまい、期待したごっこ遊びの展開がみられなかった。幼児が十分遊び込める時間の工夫や話す楽しさを味わうことのできる環境の構成をする大切さを再確認できた。

② 教師の援助の面から

- ア 教師と一緒に遊びながら、幼児との信頼関係を深めることにより、安心して話ができるように周りの幼児との仲立ちをする。
- イ 教師が、幼児の姿をとらえ「遊びの楽しさ」を周りの幼児に知らせるなど、気づかせることが不十分だった。
- ウ 教師は、一人一人の実態把握をしながら適切な言葉をかけることが大切であると再認識した。

(9) 検証保育のまとめ

- ① 本時の環境は、幼児がかかわってみたいくなるような十分な環境でなかったことを反省するとともに幼児の遊びの動線に沿った環境の再構成をすることが大切であると再認識した。
- ② 用具や材料の種類が少なくて遊びが展開しなかったことに気づいた。教師がすべて整えるのではなく、幼児と共に空き箱や空き容器などを集めるなど、幼児が主体的に活動に取り組めるような話し合いや時間が必要だと分かった。
- ③ 好きな場で気の合う友達と一緒に遊びを楽しんでいるが、教師の言葉かけや認められたりすることで、安心して過ごすと考ええる。しかし、一人一人の幼児に対して満足のいく言葉かけや個に応じた援助が足りなかったことを反省する。
- ④ 環境の再構成をしたことで幼児のごっこ遊びが発展し、幼児の思いが言葉となってでてきた。幼児の話さずにいられない思いは遊びの中から出てくることを実感した。



〔遊びの中での教師のかかわり〕



〔ごっこ遊びが発展〕

VI 研究のまとめ

本研究においては、幼児が友達と一緒に遊ぶことを通して聞く・話す楽しさを感じるような環境構成の工夫と教師の援助のあり方を探りながら保育実践を行った。2回の保育実践の結果で分かったことをまとめる。

1 環境の工夫・援助の工夫・幼児の変容から

環境の工夫	保育実践1 「絵本って楽しいね」	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会や朝の会に、幼児が落ち着いて話を聞くことのできる雰囲気をつくり、絵本を読み聞かせることが大切であることを再確認した。 ・幼児が集中して聞けるような時間の工夫や場の設定は大切である。 ・読み終わった絵本を幼児の手の届くところに置き、興味をもって自分でも見てみたいという気持ちにさせることが大切である。 ・幼児の発達に適した絵本や物語の精選をし、関心を引く絵本環境を整えることが大切である。
	保育実践2 「友達との遊びを深めごっこ遊びを楽しむ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ままごとコーナーに畳を1枚増やしたことで幼児が興味を示し集まった。気の合う友達同士のごっこ遊びへと発展し、さらに環境の再構成をすることでごっこ遊びが継続していくことが分かった。 ・教師が計画した活動をさせるのではなく、幼児の実態（興味・関心）を捉え、幼児の思いや願いに添いながら環境を構成していくことの大切さを再確認した。 ・見通しをもった計画と、試行錯誤しながらたっぷり遊び込める時間や場を工夫していくことが大切であると痛感した。 ・幼児の興味や関心を高め心動かす体験をするためには、素材や材料など教師がすべて用意するのではなく、幼児が自分で考えたり、工夫したりできるような環境を幼児とともに創っていくことが大切であることが分かった。
援助の工夫	保育実践1 「絵本ってのしいね」	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は幼児の実態把握をし、この時期に読み聞かせたい絵本を選び、読み方を工夫することが大切である。 ・教師も幼児とともに聞くことを楽しむという姿勢を持つことが大切である。 ・読み聞かせ後、その思いを教師や友達と共有したりすることが大切である。 ・絵本を読む前の導入として手遊びや指人形を使うことで幼児の気持ちを惹きつけ聞きたい気持ちにさせることができると再認識した。
	保育実践2 「友達との遊びを深めごっこ遊びを楽しむ」	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が聞く・話す楽しさを感じるために、教師は、幼児の興味や関心に沿いその時期の発達に応じた活動が展開できるような援助が必要であると痛感した。 ・遊びを振り返る場において友達のよさをクラスの子へ知らせることによって友達とかかわることの心地よさを感じられる言葉をかけることが大切である。 ・教師も一緒に遊びを楽しみながら、より多くの友達とかかわりがもてるように援助を行うことが大切。
幼児の変容	保育実践1 「絵本って楽しいね」	<ul style="list-style-type: none"> ・時折、笑い声も聞かれ、楽しんで聞くようになった。 ・読み聞かせ後、おとなしい幼児が教師に話しかけてきたことから信頼関係が深まり心を開いてきた。
	保育実践2 「友達との遊びを深めごっこ遊びを楽しむ」	<ul style="list-style-type: none"> ・環境構成のあと、ごっこ遊びの中では、楽しく話す幼児の姿が見られた。 ・教師と一緒に遊ぶことで、安心して心を開き、幼児なりの言葉で伝えようとする姿がみられた。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 教師が、幼児の興味や関心を捉え、思いや願いに添った環境の見直しと再構成をしたことで幼児の遊びが深まり友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっていた。(Ⅵ-1)
- (2) 教師が、幼児の心の声を聴くように努めることで、幼児が安心感をもち、自分の思いを出しながら遊ぶようになり、聞く・話す楽しさを感じさせることができた。(Ⅳ-4, Ⅵ-1)

2 今後の課題

- (1) 園生活の中で、聞く・話す楽しさを感じさせるための、幼児の発達段階に応じた計画的な環境構成の工夫。(Ⅵ-1)
- (2) 幼児の興味や関心を捉え、幼児が遊びたくなるような援助の工夫。(Ⅵ-1)

《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
文部科学省	『幼児理解と評価』	ぎょうせい	2010年
無藤 隆 編著	『新幼稚園教育要領 ポイントと教育活動』	東洋館出版社	2009年
無藤 隆 柴崎正行編	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』	ミネルヴァ書房	2009年
高杉自子 柴崎正行 戸田雅美著	『保育内容「言葉」』	ミネルヴァ書房	2006年